



INNO VIETNAM - JAPAN JOINT INITIATIVE IN THE NEW ERA VIETNAM - JAPAN MEETUP Vol. 18

-LifeTech-
(NeuroTech • BioTech • MedTech)

February 3rd, 2026

新しい日越共同イニシアティブ「Inno Vietnam-Japan Meetup Vol.18」 LifeTech編 (NeuroTech・BioTech・MedTech)

- 「新しい日越共同イニシアティブ」のワーキングチーム2では、「イノベーション」をテーマに、JETRO、在ベトナム日本大使館、ベトナム日本商工会議所（JCCI）、ベトナム国家イノベーションセンター(NIC)が協力して、日本企業とベトナムスタートアップの協業促進を進めてまいります。
- この度プロジェクト第18弾として、**NeuroTech・BioTech・MedTechを中心とした「LifeTech」をテーマとしたオンラインピッチイベント**を開催します。
- ①脳波解析によるウェルビーイング管理、②AI診断支援やバイオセンサーによる病気の早期発見、③ロボティクス義肢・センサー、④母子医療を中心とした統合型ヘルスケアネットワークなど、医療・健康・人間拡張の最前線を担うスタートアップ計4社をご紹介します。
- ベトナムスタートアップとの協業・出資などを検討の皆様のご参加をお待ちしております。

【日 時】 2026年2月3日（火）ベトナム時間14:00-15:30／日本時間16:00-17:30

【主 催】 JETROハノイ・ホーチミン事務所、在ベトナム日本大使館、JCCI、NIC

【参加費】 無料 【言 語】 日本語（日・英語同時通訳） 【定 員】 200名

【形 式】 ウェビナー ※Zoom (<https://zoom.us/jp-jp/meetings.html>) を使用します。
免責事項：<https://www.jetro.go.jp/events/streaming/terms.html>

【プログラム】

14:00～14:05	イントロダクション：JETRO/ 開会挨拶：JETROホーチミン事務所長 岡部 光利
14:05～15:30 （1社あたり プレゼン15分+ 質疑応答5分）	ベトナムスタートアップによるピッチ（4社予定） ◆Brain-Life（ホーチミン）： 脳と外部デバイス間の直接的な通信を可能にするシステムとAIを組み合わせ、メンタルウェルビーイングを管理できるようにするプラットフォーム/サービスを開発・展開 ◆N2TP（ハノイ）： 医療機関・病院をターゲットに、AIを活用した診断支援プラットフォームや病気の発見・定量化を行うバイオセンサープラットフォームを開発・展開。 ◆Vulcan Augmetics（ホーチミン）： 新興市場向けに手頃な価格かつ先進的なロボット義肢装具とセンサー・アプリを開発・製造 ◆315Medical（ホーチミン）： ベトナム全土で母子医療を中心にファミリー層向けの統合型ヘルスケアネットワークを展開し、国際基準の医療サービスを提供。児童心理科も展開。

【お申込み】 <https://forms.office.com/r/2LF0YwarM2>

【申込締切】 2026年1月30日（金）

※お申込み頂いた方には、開催日前日までにEメールにてアクセスURL等をお送りいたします。

【お問合せ先】 JETROホーチミン事務所（担当：三木、成瀬、イエン、チュック）

E-mail: VHO-pro@jetro.go.jp

JETRO ベトナムスタートアップ紹介【ヘルステック】

Brain - Life



Vi Chi Thanh氏
(Co-Founder & CEO)

企業・製品名	Brain-Life	設立年	2024年
代表者	Vi Chi Thanh (Dr.)	従業員数	常勤25名、パートタイム10~15名
所在地	ホーチミン	分野	ヘルステック (ニューロテック)
ウェブサイト	https://brainlife.ai/	資金調達	外部からの資金調達なし

ニューロテック分野のスタートアップ企業であり、ブレイン・コンピュータ・インターフェース(BCI：脳と外部デバイス間の直接的な通信を可能にするシステム)とAIを組み合わせ、利用者が自身のメンタルウェルビーイングを管理できるようにするプラットフォーム/サービスを開発・展開

●事業概要、技術・製品・サービス概要：Focus+というウェアラブルデバイスおよびAI搭載のプラットフォームを開発しており、利用者は自身のメンタルウェルビーイングを把握・管理できる。ウェアラブルデバイスは複数のセンサーが搭載された軽量ヘッドバンドであり、各個人に合わせ、リアルタイムでのフィードバック・介入機能を備えている。個人ユーザー(学生、オフィスワーカー、ドライバーなど)から、健康と生産性向上を目指すB2B顧客(企業、医療機関など)まで幅広い市場を対象としている

Focus+の特徴：3種類のセンサー（EEG、fNIRS、PPG）を統合し、脳活動や心拍数などの健康指標を測定する。同デバイスは、医療機器に匹敵する精度で脳波を測定可能とする独自設計のチップを搭載しており、複雑な設定なしですぐに使用できる。また、形状やサイズ、用途に応じてカスタマイズ可能であり、ファッションなヘッドバンドや、産業用安全ヘルメットへの組み込みなどにも適用可能

・システムの特徴：リアルタイムで「測定—通知—介入」を繰り返す形で動作し、デバイスがモバイルアプリおよびAI搭載クラウドプラットフォームと連携して解析を行う。現在提供中の集中力向上アプリにおいては、プラットフォームがユーザーの集中力をモニタリングし、集中力の低下を検知すると、科学的根拠に基づいた個々人に合わせた介入(例:デバイスが軽く振動を与えるなど)を行い、再び集中できるよう手助けする

●収益モデル：①Focus+ハードウェアの販売、②クラウドベースのアプリ/サービスの年間利用料、③当社特許技術および独自ノウハウのライセンス料金

●現在抱えている課題やニーズ：当社はベトナムのニューロテック市場の先駆者として、事業拡大および商業化の加速のためにより多くのリソースを必要としている

●今後の事業計画：

・ターゲット市場：まず、B2B顧客(研究機関、企業、医療機関など)に注力し、増産体制構築後にB2Cへと展開する予定。現在はベトナムおよび英国で活動しており、2028年頃までにEU・米国へ、2030年頃までにアジアおよびその他のグローバル市場へ拡大する計画である

・製品開発：一般消費者向けに改良版「Focus Pro」を、医師および医療用途向けにセンサーおよび高性能チップを追加した「Brain Med」をリリースする計画である。また、長期的には、眠気、ストレス、うつ病、脳卒中の早期検知、最終的にはアルツハイマー病の予兆検知が行えるアプリ開発を計画している

●資金調達：これまで外部からの資金調達は行っておらず、英国王立工学アカデミーから2万ポンドの助成金を得たのみ。現在、プレシード期において、10%の株式に対し100万USDの資金調達を実施中

●大学・研究機関・企業との連携：研究・開発においてHanoi Medical University、University of Medicine and Pharmacy at HCMC、University of Oxford、VINMECといった世界の大学・研究機関と連携。当社プラットフォーム/サービスにおけるクラウド利用についてGoogle Cloudから支援を受けている

【こんな日本企業を探しています】

- ・当社の中核技術・ノウハウを活かし、新たなカスタマイズ型サービスの共同開発を検討できる企業
- ・当社の技術・ソリューションのさらなる強化に向けて研究開発面で連携を検討できる企業・大学・医療機関
- ・資金面での協力が可能な企業

同社との連携をご希望の方は、①貴社名、②想定されている連携内容を記載の上、下記までご連絡ください。
【連絡先】ジェトロ・ホーチミン事務所
E-mail：VHO-PRO@jetro.go.jp



企業・製品名	N2TP	設立年	2020年
代表者	Duong Thi Hong Nhung氏	従業員数	9名 (主に研究開発、IT担当)
所在地	ハノイ	分野	Healthcare, AI & Data
ウェブサイト	https://n2tp.com/	資金調達	2024年：20万ドル/プレシード



Duong Thi Hong Nhung氏 – CEO

バイオテクノロジー活用し、医療と製薬の分野における革新的なソリューションを開発するスタートアップ企業

●事業概要、技術・製品・サービス概要：B2B2Cモデルで事業を展開しており、医療機関・病院をターゲットに病院や医師・医療従事者による患者情報取得、管理を支援するソリューションを提供している：

(1) SmartDoseAI：AIを活用し病院や医師を支援するプラットフォーム

- ✓ 臨床情報と患者の血液中の薬物濃度に基づいて、治療有効域の狭い薬の投与量調整を支援するプラットフォーム：(1) 個々の患者の症状に応じて薬の投与量を調整する (2) 血液中の薬物濃度と服用履歴をトラッキングする (3) 症例について他の医師と相談する (4) 病院での一連の治療プロセスにモバイルアプリを活用 (5) 病院全体における薬の使用状況の分析、などが可能となる
- ✓ 現在、SmartDoseAIはウェブサイト上とモバイルアプリで利用可能。患者の臨床情報に基づいて薬の投与量を予測し、薬物動態（薬が体内に投与されてから排出されるまでの経時的変化）と薬力学（薬が体に及ぼす影響）をリアルタイムで監視し、血液中の薬物濃度をモニタリングする。AIは1回の濃度測定で正確な投与量を算出できるため、患者の症状の経過に柔軟に調整することが可能。モバイルアプリでは、患者の状態をリアルタイムチャートにより、常時モニタリングできる。患者情報管理（各部門ごとの独自の患者情報管理を含む）、薬の投与時間の通知、共有システムへのデータの自動更新などの機能により、治療効率の向上、各患者に合わせた治療計画策定を支援する。また、部門別治療状況、週別・月別・四半期別・年別・病室別の治療状況、治療における問題点の早期発見、警告を行う。薬の投与量レポート（各患者ごとに適切な投与量を判断し、副作用の少ない治療を行う）の作成と記録、統計データの作成機能も提供。ビッグデータとAIを活用し、臨床データに基づいて薬剤特性と薬剤反応を継続的にモニタリングし、投薬・治療の最適化を支援する

(2) LynxDetect：病気の発見と定量化を行うバイオセンサープラットフォーム

- ✓ 遺伝子編集技術を活用して、さまざまな核酸（DNA、RNA、miRNA）の検出と定量化を行い、診断キットに必要な高分子の効率的な生産を支援する。感染症やがんの検出など、幅広い用途に使用可能
- ✓ ddPCR（既存のデジタルPCR法の一つで、微小水滴を検査に用いる方法）と同等の精度を確保しながら、高い効率性を実現、従来品よりもコストを最大60%抑えられる。分析速度（1～2時間以内）も速いため、検査の待ち時間を最大50%短縮できる。また、複雑な抽出手順や検査室を必要としないため、導入が容易なソリューションである
- ✓ LynxDetectプラットフォームを用いて、これまでに5種類のテストキットを開発し、うち2種類は臨床試験の準備が完了している

●収益源：現在、SmartDose AIを病院に無償提供している、LynxDetectはまだリリースしていない

●競合他社：

- ✓ SmartDoseAI：オーストラリアと米国に競合が3社いるが、これら3社は北米とオーストラリア市場に重点を置いている、ベトナムにおける臨床データを持っていないため、近い将来ベトナム市場に参入することはないと考えている
- ✓ LynxDetect：Sherlock社、VedaBio社、Mammoth Bioscience社など海外に競合が3社いる。これらに対して優位な点として、N2TPは現在、CRISPR（Clustered Regularly Interspaced Short Palindromic Repeats：細胞内の遺伝子配列を直接変更する技術）技術を次世代型のCRISPR+へと改良を進めている。この新技術は、miRNAなどの短鎖核酸を検出および定量化することができ、コストも20～25%ほど抑えられる見込みである

●売上、経営状況：現在、どちらのソリューションからも収益は得ていない。SmartDoseAIは、ベトナムの50以上の病院で使用されており、うち15は中央レベルの病院である。これまでの利用記録を見ると、毎月300人の患者を支援、うち90%で副作用のない投薬が実現している。また、Vietmedical社（ベトナムの3大医療機器販売代理店の1つ）と提携しているほか、2021年からはNVIDIA Inception Programに加盟している

●現在抱えている課題やニーズ：

- ✓ SmartDoseAI：ベトナムには治療支援ソフトウェアに関する政策がないため、普及が難しい（現在は病院に無償で提供している）
- ✓ LynxDetect：さらなる開発資金が必要。また、医療機器として登録することが難しい

●今後の事業計画・展開予定地域：今後2～3年の間に、200万ドルを追加調達、ラボの立ち上げや設備の導入、バイオバンクのサンプルを用いた技術的検証、評価、臨床試験、法的文書の作成などを行う

●資金調達：2024年のプレシードラウンドで、AiViet Venture FundとBK Fundから計20万ドルを調達

●イノベーションに関する受賞歴：2024年、NVIDIA Academic Grantを受賞。2022年、SK Startup Fellowshipのトップ12に選出

●大学や研究機関、企業との連携実績：ハノイ薬科大学（実証実験）、ハノイ工科大学、九州大学（実証実験および講師との連携：講師が同社のコンサルタントを務めている）など、複数の大学と連携している。また、フランス国立科学センター（IRD）とも連携している（サービス提供）

●その他：現在、LynxDetectの特許申請を準備している

【こんな日本企業を探しています】業務提携／技術提携／資金調達

- ・医療機器および製薬業界での経験・知見があり、LynxDetectの法的文書の作成をサポート可能な日本企業
- ・日本の投資家

同社との連携をご希望の方は、①貴社名、②想定されている連携内容を記載の上、下記までご連絡ください。

【連絡先】ジェトロ・ハノイ事務所

E-mail：VHA-Innovation@jetro.go.jp



VULCAN AUGMETICS

企業名	Vulcan Augmetics	設立年	2018年
代表者	Rafael Masters氏 (Co-Founder & CEO)	従業員数	25人
所在地	ホーチミン市	分野	ロボティクス
ウェブサイト	https://www.wearevulcan.com/	資金調達	金額非公開

Rafael Masters氏
(Co-Founder & CEO)

Vulcan Augmeticsは、新興市場向けに手頃な価格かつ先進的な義肢装具とセンサーを研究開発・製造している

●ビジネスモデル:様々な市場に合わせた手頃な価格のソリューションを提供することで、義肢装具業界に革命を起こすことを目指している

- ✓ センサー:接続するだけで使えるセンサー。設置が簡単で、リアルタイムで多様なデータを収集し、システムがユーザーの操作や介入なしに自動的に学習するパッシブ機械学習による適応も可能
- ✓ アプリ:デバイスに接続したセンサーからトレーニングデータを収集し義手の調整をサポートする。ユーザー自身が義手を調整できるようになり、クリニックに通う必要がなくなる
- ✓ 義手:手頃な価格、手軽さ、メンテナンスのしやすさを追求した義手。筆記やバイクの運転などといった人間の手が物を掴むような自然な動きで利用者を補助する。製品には6ヶ月から24ヶ月の保証が付き、バッテリーは最大8時間使用可能(または3時間連続使用可能)。義手のソケットは、サービス契約結んでいるクリニックから支給される
- ・ ベトナム:顧客に直接販売(B2C)。製品をすぐに使える状態で販売している
- ・ 他国:組み立て前の製品パッケージを代理店や政府に販売。代理店が製品を組み立てて、エンドユーザーに販売する

●問題点・ニーズ:世界各国での製品販売には、必要な輸出入書類や認証手続きが多く、出荷プロセスが遅くなる。また、事業拡大のためにより多くの資金が必要になる

●今後の事業計画:

- ✓ 経営:2024年にはインド(すでに12のクリニックと契約済み)、マレーシア、トルコ、シンガポール、カンボジア、ブラジル、イラクなどで販売開始予定。2024年末の黒字化達成を見込んでいる
- ✓ 製品:将来的には、より複雑な用途に対応できるように製品のセンサーをアップグレードすること、あらゆる義手に当社のセンサーを取り付けられるようにアダプターを開発すること、先進的なデザインの義手を開発することを目指している

●資金調達:機関投資家(Vietnam Silicon Valley、TheVentures、Techstars、Quest Ventures、raiSE、Epic Angels、Reason)およびエンジェル投資家:Tony Owens氏(元Salesforce社長)、Marco Breu氏(McKinsey)から、プレシードラウンド(2019年)およびシードラウンド(2019年～現在)で調達。金額は非公開(100万米ドル以下)

●各種受賞歴:Blue Venture Award 2018で1位、Techfest Vietnam 2018でトップ10、The Chivas Venture 2019のベトナムファイナリスト、SXSW Innovation 2022のファイナリスト

●大学・研究機関・企業との協業(過去・現在含む):The Coffee House、RMIT、Becamex、Invesco、DRD、Momoなどとの提携によるベトナムの四肢切断者へのロボットアーム提供(UpLift Project)、KOICA、UNDP、Department of Social Protectionとの提携によるベトナムの地雷被害者へのロボットアーム提供(KVMAP Project)、Exceed Worldwideとの提携によるカンボジアでの製品販売、Tan Tock Seng Hospitalとの提携によるシンガポールでの製品販売

⇒2024年7月報道) 患者に対する義手製品の提供に関して、インド全国のクリニック14施設との連携を公表。

【こんな日本企業を探しています】

- 日本進出(遠隔リハビリテーションや義手)を支援可能な日本の医療制度や市場に精通したパートナー
- 当社のセンサーをVRやARの分野で活用するための研究開発パートナー
- トレーニング補助用の人型ロボットを開発している企業
- プロジェクトのための資金調達

同社との連携をご希望の方は、①貴社名、②想定されている
連携内容を記載の上、下記までご連絡ください。

【連絡先】ジェトロ・ホーチミン事務所
E-mail:VHO-PRO@jetro.go.jp

JETRO ベトナムスタートアップ紹介【ヘルスケア】

(2025年11月25日)



企業・製品名	315 Medical	設立年	2020年
代表者	Khang Nguyen (Mr.)	従業員数	2000名超
所在地	ホーチミン	分野	ヘルスケア

ベトナム全国にヘルスケアシステムを展開し、母子医療を中心にファミリー層向けに、高品質・高いアクセス性・手頃な価格で医療サービスを提供

●事業概要、技術・製品・サービス概要:

- 180超のクリニック、600名超の専門医を擁し、累計300万件超の診療実績を有する同社は、患者ニーズと体験を重視した事業を運営。多職種からなる医療チームが密に連携し、国際的な品質基準に準拠し、先進的な医療技術を活用した統合型クリニックネットワークを基盤に、包括的な医療サービスを提供している
- 同社は多様な専門領域で複数のクリニックブランドを展開。例: Nhi Dong315(小児科・予防接種)、Phong Kham Tam Than-Tam Ly Nhi Khoa315(児童心理科315)、Phu San315(産婦人科)、Tim Mach-TieuDuong315(循環器・糖尿病)、Mat315(眼科)、Ivy Health(国際基準の総合診療クリニック)
- ベトナムの主要都市および地方に広く拠点を有し、診療・治療プロセスを標準化することで、全拠点において安定した医療品質を確保。医師チームには、Tu Du病院、Hung Vuong病院、国内トップクラスの小児科・眼科病院など、主要著名な中央病院出身のシニア専門医が含まれており、医師に対する継続的な専門研修も実施している

●収益モデル: 診察、健康診断、検査、治療、ワクチン接種、院内薬局での処方など、医療サービス提供の対価が主な収益源である。加えて、年間会員カードや企業向け定期健康診断からの収益もある

●現在抱えている課題やニーズ: 優れたパートナーとの協業を通じて患者に提供する医療価値を一層高めるとともに、地域社会への貢献を強化していくことを重要視している。併せて、医療AIをはじめとする先端技術を活用し、臨床品質・経営業績ならびに患者の治療成果/健康改善効果の向上を図りたい

●今後の事業計画: 短期: ベトナム国内での市場シェア拡大、顧客体験の向上、イノベーションの継続的導入による患者価値および事業成果の最大化を図る。長期: 女性・小児向け医療分野におけるベトナムトップの多科医療提供事業者となるため、強固な内部品質基準を確立するとともに、総合病院レベルの医療サービスを立ち上げ、包括的な医療エコシステム完成を目指す

●資金調達: シリーズCまでの累計資金調達額は約1.95億USDとなる(開示されている調達額の合計)

●各種受賞歴: Top 3 Outstanding ASEAN Enterprises 2025 (第6回ASEAN Economic Forum)、Top 1 Outstanding Brand Asia 2025(Asia Excellent Brand Awards2025)

●大学・研究機関・企業との連携:

小児・ファミリー向け健康増進に向けたProject Vietnam Foundation(米国NPO)との連携。クリニック設備の高度化およびワクチン・医薬品供給の確保を目的とした日本光電(日本)、Abbott(米国)、Pfizer(米国)などのグローバル医療機器・製薬企業との連携。また、Unilever(英国)、Huggies(米国)などのファミリー・母子向け商品ブランド/小売業者、MoMoなどのデジタルプラットフォームと連携し、共同ブランドプロモーション、簡便な予約・決済、母子向けバンドルサービスの提供を実施

【こんな日本企業を探しています】

- ・B2C事業における連携体制を共同で構築し、母親・小児向けヘルスケアサービス(眼科、糖尿病、心疾患、児童心理など)を双方のエコシステムに統合するといった連携が可能な消費者ブランド事業者、デジタルプラットフォーム事業者、教育関連組織など
- ・女性・子ども・社会的弱者を対象としたコミュニティヘルスケアプログラム/サービス事業を共同運営するといった連携が可能な、ベトナムにおいてESG・CSR活動に積極的な企業・ファンドなど
- ・企業向け健康診断サービスを共同で提供するといった長期的・戦略的な連携が可能なベトナム企業
- ・日越において積極的に事業を展開している銀行・金融機関

同社との連携をご希望の方は、①貴社名、②想定されている連携内容を記載の上、下記までご連絡ください。
【連絡先】ジェトロ・ホーチミン事務所
E-mail : VHO-PRO@jetro.go.jp

※本資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力しておりますが、その正確性を保証するものではありません。

※本資料の記載内容に関して生じた直接的、間接的、あるいは懲罰的損害および利益の喪失については、一切の責任を負いません。